


データ収集マニュアル

● 概要

交通状況を写した運転シーンに対して、危険物体の特定及びそれらの危険物体が保有するリスク要因をマークし付与する。作成されたデータは、研究で使用されます。

● 画面構成



- ✓ 「運転シーン」
 - 運転シーンの動画が流れます(平均 5 秒)
 - 一定時間経過後、動画が静止しマーク可能になる（マーク方法は作業手順に記載）
- ✓ 「マークしたリスク要因一覧」
 - マーク後、リスク要因チェック欄が表示される
- ✓ 「ページ番号(2 ページまで)」
 - 1 ページに 3 つまで危険物体のリスク要因チェック欄が表示される
 - 4 つ目をマークすると、自動的に 2 ページ目に推移します
 - ページボタン  を押下することで指定ページに推移する

- ✓ 「NEXT ボタン」
 - 次の運転シーンに進む
 - 前の運転シーンに戻ることは不可能
 - 入力内容に誤りがないか要確認

- ✓ 「ガイド」
 - 作業手順と補足

● 作業手順

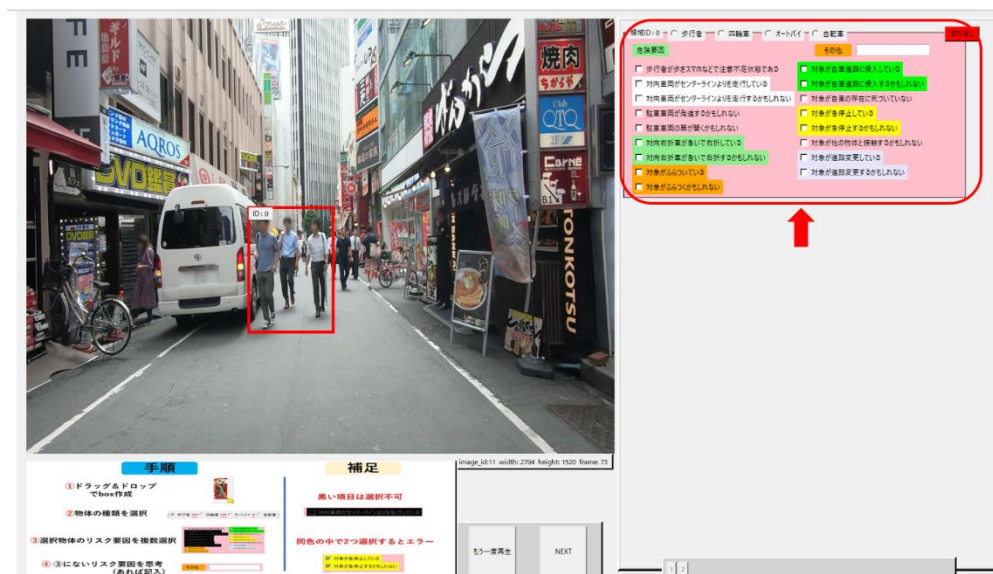
① 運転シーンに存在する危険物体をドラッグ&ドロップでマークする

自車に危険を及ぼす可能性のある注意が必要な物体をマークする
マーク方法の詳細は追記 1 に記載してある



- 「マークしたリスク要因一覧」にリスク要因チェック欄が表示される

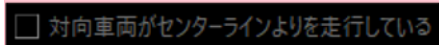
取り消しボタン 取り消し を押下することで要因チェック欄を削除できる



② 物体の種類を選択

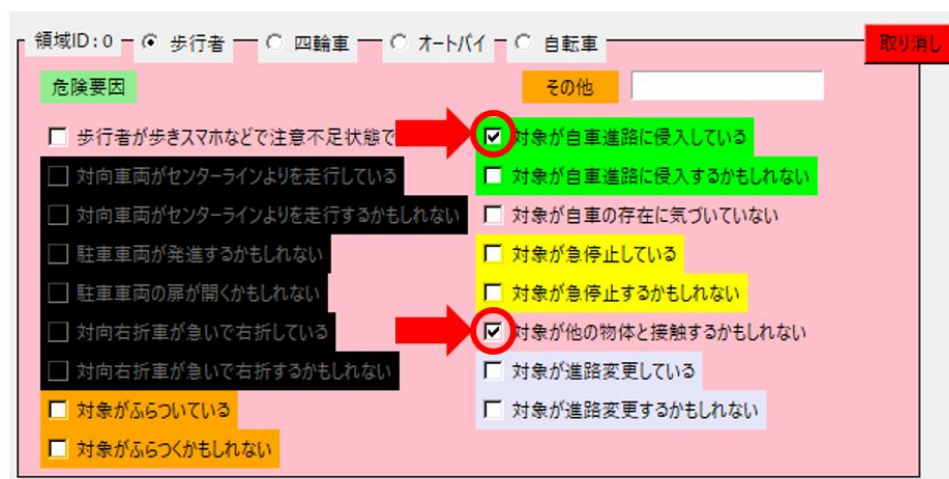


- リスク要因チェック欄に、選択した物体に関連するリスク要因のみが残る。（関連しないリスク要因の項目は黒く表示され、チェック不可となる）



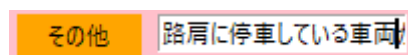
③ 選択した危険物体のリスク要因を選択

選択した危険物体が、自車に対して事故を引き起こす可能性のある要因をチェックする。チェック方法の詳細は[追記2](#)に記載してある。



④ リスク要因チェック欄に存在しないリスク要因を記入

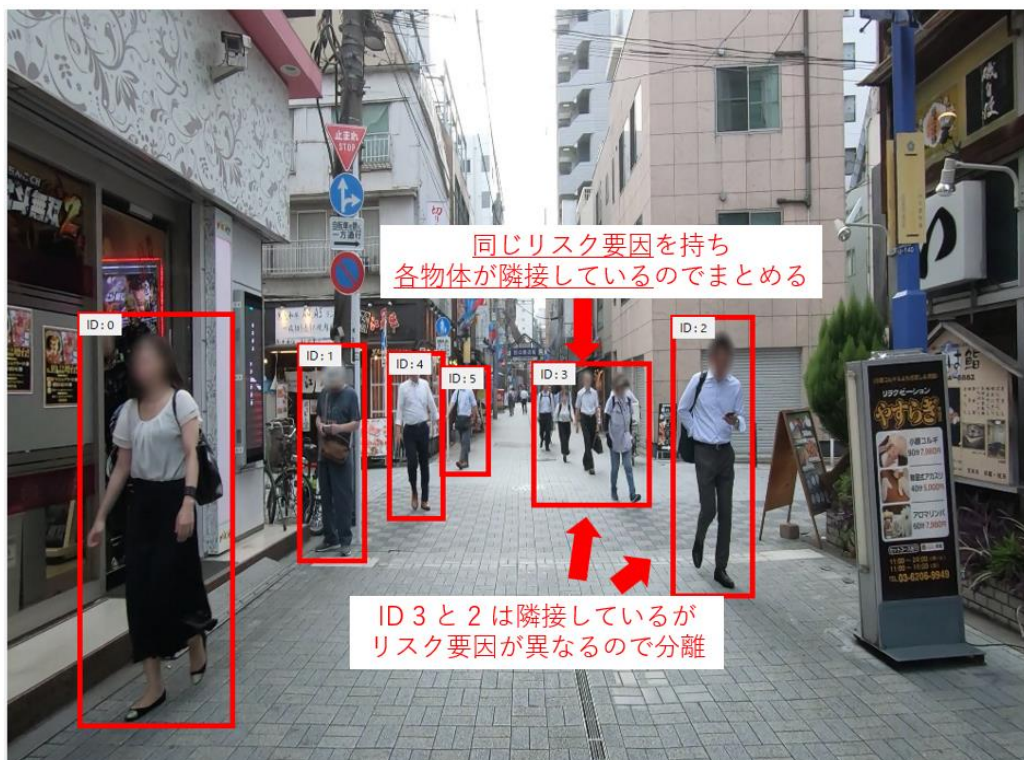
「その他」の欄に記入し、記入の方法の詳細は[追記3](#)に記載してある。



手順①～④を繰り返し、すべての危険物体にラベル付けが完了次第、NEXTボタンを押下。（**チェック内容に誤りがないか要確認**）

◆ 追記1「物体のマーク方法」

同じリスク要因をもつ物体が隣接していた場合、以下の ID:3 のようにまとめてマークする



◆ 追記2「リスク要因チェック方法」

あるリスク要因をチェックする場合、そのリスク要因が当てはまる理由を思い浮かべてチェックする。



☐ 対象が他の物体と接触するかもしれない

にチェックを入れた場合

理由：対象の前方に看板があるから





☐ 対象が自車の存在に気づいていない

にチェックを入れた場合

理由：対象が自車に対して
背面を向いているから



◆ 追記 3「その他の記入方法」

リスク要因チェック欄に存在しないリスク要因がないかを必ず思考し記入する。



曲がり角から飛び出しているので
他の危険物体と比べ発見が遅れやすいのでは



曲がり角からの飛び出し